



## 29 白馬節会置物

山崎朝雲

一点

大正十三年（一九二四）

木彫

二八・〇×五五・四×四一・五

白馬節会あけうまのせちえとは、古来より続いた宮中の年中行事の一つで、一月七日に天皇が紫宸殿に出御、群臣に賜宴、左右馬寮めりょうの官人が牽く二十頭の白馬を御覧になる儀式。この日に白馬を見れば年中の邪気を遠ざけるとされた。持統天皇の頃には恒例化されたが、鎌倉・室町時代には次第に衰微し、近世に再び恒例となったが形骸化し、明治二年（一八六九）に廃絶した。

本作は、大正十三年（一九二四）一月の皇太子裕仁親王（昭和天皇）の御結婚に際して、皇太子妃となった良子妃（香淳皇后）から皇太子へ贈られた。日本美術協会総裁で良子妃の父君であった久邇宮邦彦王から同協会の中心的な作家であった山崎朝雲に制作が依頼された。朝雲は、作品番号28の「賀茂競馬置物」とともに同時期に馬をあつかった作品を二点制作していた。朝雲に馬の作例は珍しいが、どちらも献上を目的として制作されたものであり、馬体の筋骨の表現にはしっかりとした観察の跡がうかがわれる。なお、本作に附属する台は蠟色塗に花菱の螺鈿がほどこされ、「賀茂競馬置物」に附属する台と同様の意匠で統一されている。

山崎朝雲（一八六七〜一九五四）は福岡県博多の生まれで、地元の仏師に師事した後、京都に出て明治二十八年の第四回内国勸業博覧会で妙技三等賞を受賞してその名が知られた。上京して高村光雲や小倉惣次郎の門下となり、伝統木彫だけでなく洋風彫塑の技法を学んだ。官展を中心に東洋の神話や伝説、歴史に取材した作品を発表、昭和九年（一九三四）には帝室技芸員に任命された。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

こまくら  
駒競べ——馬の晴れ姿

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 73

編集 宮内庁三の丸尚蔵館  
制作 株式会社 東京美術  
翻訳 黒川廣子  
発行 宮内庁  
平成二十八年七月九日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shōzōkan